

第6章 現状変更

第1節 現状変更の概要

荻外荘の建物部分は、平成28（2016）年3月1日付で国史跡の指定を受けた「荻外荘（近衛文麿旧宅）」を構成する重要な要素である。この建物は、昭和2（1927）年に入澤達吉の別邸として建築され、昭和12（1937）年に近衛文麿に譲渡、昭和18（1943）年頃には「書斎」「寝室」「玄関」などが改修されている。昭和35（1960）年に「応接室」や「客間」を含む東側半分が豊島区巣鴨へ移築された。

杉並区は平成26（2014）年に、荻窪の荻外荘の敷地及び建物を取得し、平成29（2017）年3月に「荻外荘保存活用計画」を策定、「復元整備工事での現状変更等の許可に関する取扱い基準」及び「ゾーン別の現状変更等の取扱い基準」（杉並区「荻外荘保存活用計画」平成29年3月、第5章）を定めた。平成30（2018）年には、豊島区巣鴨へ移築された部分も取得し、荻窪への再移築を含めた復元整備工事に係る現状変更の手続きを進めた。また、復元整備工事の進捗に伴い工事内容に変更の必要が生じた箇所は、現状変更の計画変更を行った。

ここでは復元整備工事に直接関係する現状変更を記述する。

第2節 現状変更

史跡内の建物を、昭和戦前期の政治転換点となった重要な会談が行われた昭和15（1940）年から16（1941）年頃の姿に復元し、当時の雰囲気を感じられる復元整備を行うため、3杉並第30444号（令和3年9月10日付）で現状変更を申請、3文庁第1991号（令和3年12月17日付）で文化庁の許可を受けて、令和4（2022）年7月に本工事に着手した。

本現状変更の内容は復元整備工事全般に係る工事で、史跡の北側部分を対象としている。

主な変更内容は、巣鴨棟（客間棟・玄関棟）の移築復元、荻窪棟の復元整備工事、耐震補強、正門工事、浸透柵工事、給排水・電気設備工事、外構工事・設置工事、園路整備、案内サイン設置、植栽工事である。

〔巣鴨棟の復元整備工事〕

発掘調査で発見された巣鴨棟の建物基礎を活かし

ながら、基礎補強を施したうえで、その上に豊島区巣鴨より再移築した巣鴨棟の部材を組み上げた。「南側玄関」は新規で建築を行い、「応接室」「客間」「来客用手洗」等の内装を復元した。なお、巣鴨棟は荻窪棟と接続し、一体の建物として整備している。

〔荻窪棟の復元整備工事〕

復元対象とした昭和15年から16年頃の姿に復元することを目的とし、近衛文麿居住期以降に改修された風呂場やトイレ等を撤去後、基礎工事、耐震工事、木工事、屋根工事等を行った。

〔庭園整備工事〕

文麿居住期の敷地内の景観を再現するために、既存の樹木を活かしつつ、荻外荘建物周辺、車回し、斜面地等に植樹を行った。

〔正門〕

既存の門柱については、まず外側の石材部分を慎重に解体し、内部の基礎部分は補強材を入れて新築した。その後外面の石材部分を当初の状態に復元した。門扉についても当時の塗装色を再現したうえで再設置した。

3文庁第1991号

杉並区長

令和3年9月10日付けで申請のあった史跡荻外荘(近衛文麿旧宅)の現状変更(客間棟・玄関棟移築)を文化財保護法(昭和25年法律第214号)第125条第1項の規定により下記の条件を付して許可します。

(以下省略)

令和3年12月17日

文化庁長官 都倉俊一

文化庁許可文（一部抜粋）

第3節 計画変更

(1) 寝室での構造用合板の設置

文化庁指針で定める耐震上の「安全確保水準」を満たすため、創建時の部材への影響を与えない位置として、「寝室」南西角に構造補強壁を設置した。

工事開始後に、「寝室」壁の一部が創建時・近衛文麿居住期の部材の可能性があることが判明したため、構造用壁はふかし壁とし、当初からある壁と混同されないよう、室内の意匠や色調との調和に配慮した。

工事内容の詳細および工事図面は、「第4章 設計 第3節 耐震診断と構造補強」の「図4-17」～「図4-19」を参照されたい。

申請-5杉並第46471号（令和5年11月28日付）

許可-5文庁第4720号（令和6年1月17日付）

(2) 書斎縁側での沈下対策

地盤沈下により「書斎」縁側の基礎が南側へとずれていることが確認されたため、該当箇所に沈下対策を講じた。

地中状況を確認するため「書斎」縁側下を試掘したところ、地中に陶管が良好な形で残存していたことが判明した。そのため、陶管を現地保存し回避する形で、これ以上の沈下を防ぐために、「書斎」縁側下にセメント系土壌置換材を注入する土壌置換工事を実施した。

工事内容の詳細は、「第7章 復元工事 第2節（5）地盤改良工事」を、工事図面は「図6-1」を参照されたい。

申請-5杉並第9951号（令和5年5月17日付）

許可-5文庁第1326号（令和5年6月23日付）

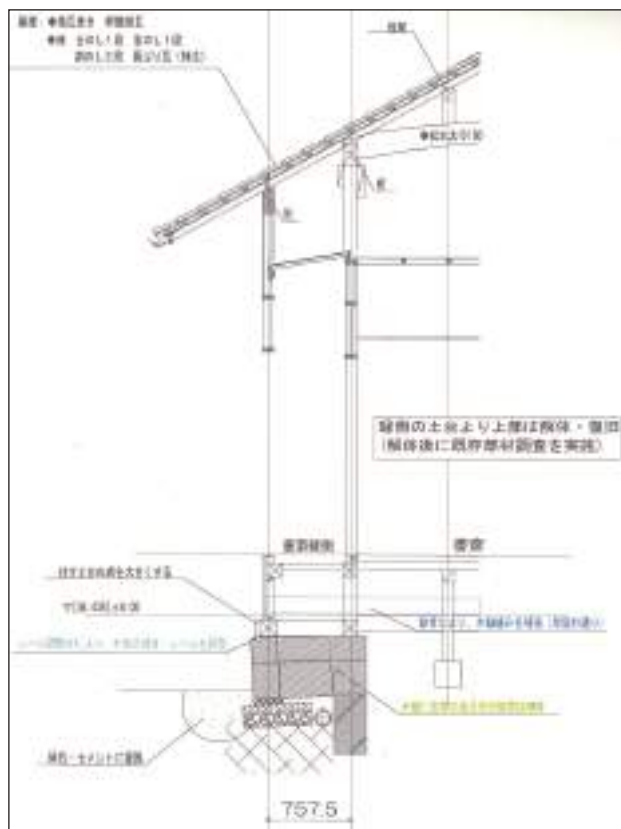


図 6-1 書斎縁側での沈下対策